

教えるための経済学入門

— 「公共」、 「政経」 で学ぶ労働 —

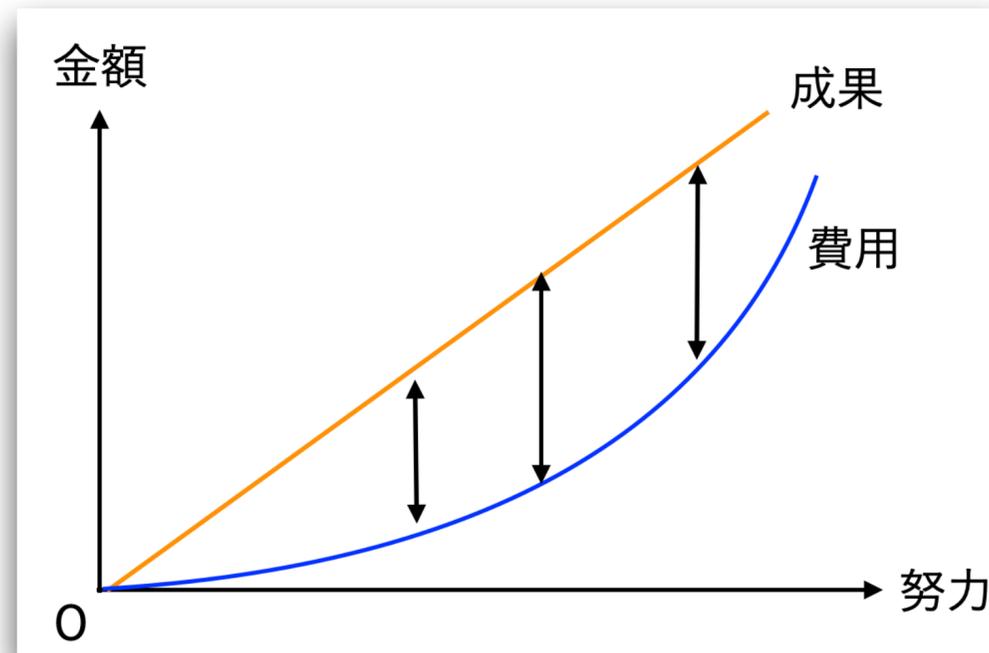
日本大学経済学部

教授 安藤至大

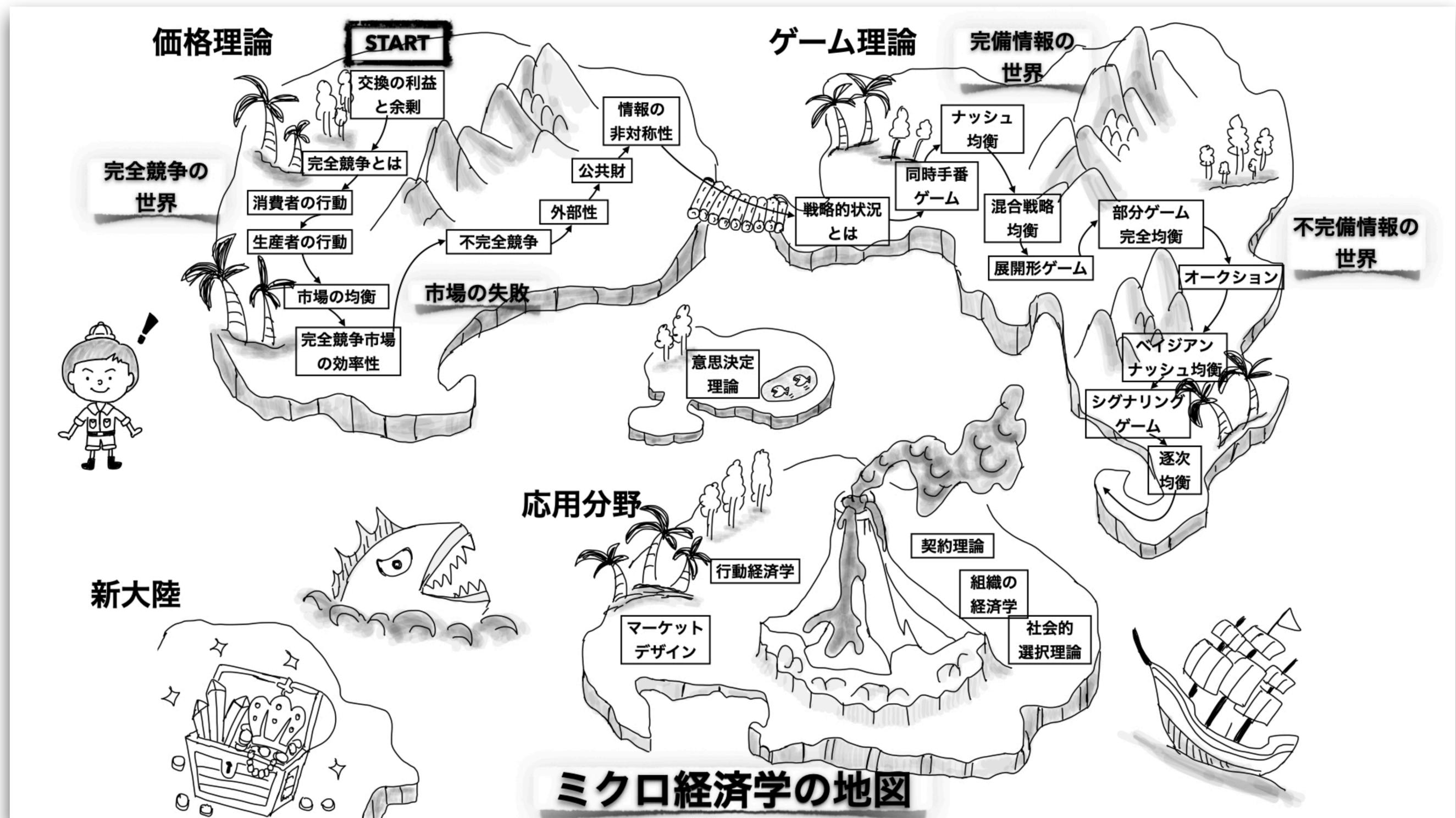
経済を学ぶ ≠ 経済学を学ぶ

経済学とはどんな学問か

- 学問領域は、二つに区別できる
 - 研究の対象か、それとも研究の道具か
- ディシプリンとしての経済学
 - その特徴は、
 - 方法論的個人主義
 - 最適化と均衡



積み上げ型の学問なので、地図が描ける



経済を学ぶ ≠ 経済学を学ぶ

- 経済学は、経済を学ぶ際の一つのものの方
- そうは言っても、かなり優秀な切り取り方ができる道具
- 経済学というレンズを通して人間や社会をどのように捉えるのか

高校生が学ぶ「労働」

公共と政治経済

- 新井明先生による整理
 - 「新指導要領の科目「公共」では雇用と労働問題として主にキャリア教育的な観点からの労働が扱われます。一方「政治・経済」では労働法制、労働市場などミクロ経済学の視点やマクロ的な観点からの労働が扱われます。」
- 教科書の内容は、基準に従っているため、おおよその構成は似ている
- しかし先生の理解と伝え方によって、生徒の学びは大きく変わるはず

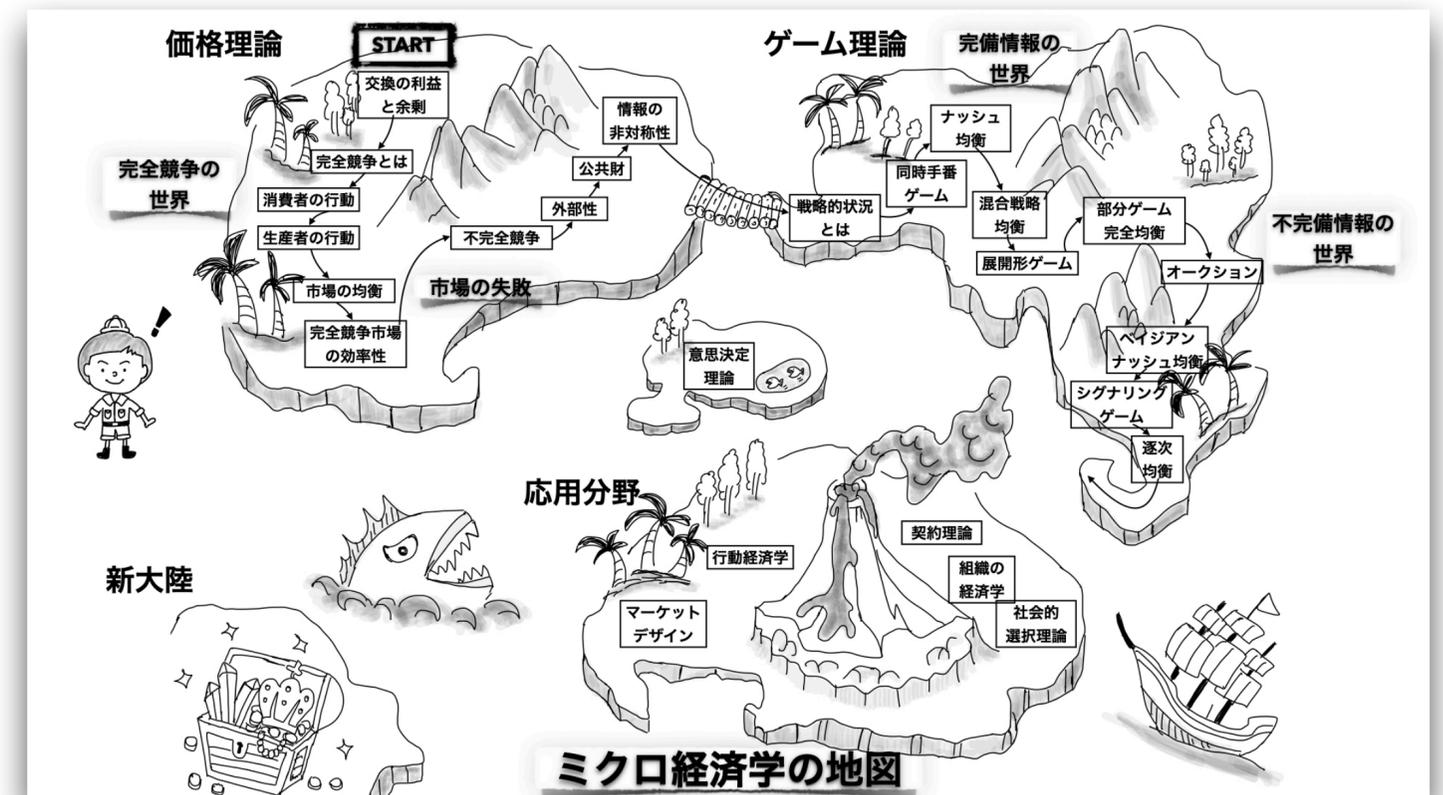
どの視点で考えるか

- 高校生が学ぶ労働
 - 個人のキャリア形成
 - 労働市場や労働法制
- 個人と日本全体の間には、多様な中間が存在する
 - 社会や経済のグローバル化
- 副業・兼業の時代
 - 雇われる側と雇う側の視点



個人の最適 ≠ 全体の最適

- パーソナルな視点とパブリックな視点をどのように繋げるのか
- 経済学の捉え方
 - 価格理論でも、市場の失敗を扱う
 - ゲーム理論では、囚人のジレンマゲームを説明する
 - 合成の誤謬といったキーワードもある
- 個人の最適と全体の最適のズレを調整するために、法制度や規制介入がある



労働分野での個人と全体のズレ

- 最低賃金制度
 - 生産性に見合った時給1000円であり、その金額で良いから働きたい人
 - 最低賃金が1113円だと雇ってもらえない
 - 社会全体の利益の観点から最低賃金制度は導入されている
- 労働時間規制
 - もっと働きたい、そして健康を損なうことなく働ける人も、上限規制に従う必要がある
 - 労働基準法の見直しの議論で、ワークライフバランスに配慮した労働時間を上限とすべきとの意見もある
- 解雇のルール
 - 雇用保障が強いことで助かる労働者もいれば採用されない労働者もいる

個人の中でも、部分と全体のズレがある

- 部分最適が全体の最適と一致するとは限らない
- 個人のキャリアを重視して、配置転換のない仕事に就く
 - 会社が人事権を持つ日本型雇用だからこそ、配転を通じた適材適所の実現と育成が行われたという面、また雇用保障に繋がったという面もある

高校生に学んで欲しいこと

- 個人の最適と全体の最適は違う（こともある）
 - 少なくとも個人にとっての最適な行動と、社会のために必要なことを両面から学んで欲しい
 - 無理にそのギャップを埋めようとしなくても良い
- 個人の行動が必ずしも社会にとって望ましい方向性と一致していなくても、重く捉えすぎないことも生活の知恵
 - 例：ふるさと納税の制度には反対だが、自分は寄付するというのも選択肢のひとつ

生徒が腑に落ちる授業のために

近頃流行るベルグソンでもオイケンでもみんな向ふの人が兎や角いふので日本人も其尻馬に乗つて騒ぐのです。まして其頃は西洋人のいふ事だと云へば何でもかでも盲従して威張つたものです。だから無暗に片仮名を並べて人に吹聴して得意がつた男が比々皆是なりと云ひたい位ごろごろしてゐました。他の悪口ではありません。斯ういふ私が現にそれだつたのです。譬へばある西洋人が甲といふ同じ西洋人の作物を評したのを讀んだとすると、其評の当否は丸で考へずに、自分の腑に落ちやうが落ちまいが、無暗に其評を触れ散らかすのです。つまり鶉呑と云つてもよし、又機械的の知識と云つてもよし、到底わが所有とも血とも肉とも云はれない、余所々々しいものを我物顔に喋舌つて歩くのです。然るに時代が時代だから、又みんながそれを賞めるのです。

けれどもいくら人に賞められたつて、元々人の借着をして威張つてゐるのだから、内心は不安です。手もなく孔雀の羽を身に着けて威張つてゐるやうなものですから。

出典：夏目漱石「私の個人主義」

生徒が腑に落ちるためには

- 先生が腑に落ちていなければ、生徒にうまく説明できない
 - 全体像を把握している→過去・現在・未来
 - 限界も理解している
- 一方的な立場を取らないように、体験を増やし、理解の幅を広げる
 - 手触りのある話ができるか→実体験の強さと弱さ
- 分からないことの怖さ、先行きの不安を共有する
 - 先生が自分のこととして考えているか否かは伝わる
- ネガティブな話とポジティブな話のバランス
 - 労働というと、ついつい問題事例や不安ばかりが扱われがち

新しい取り組み

新しい取り組み

- 経済学は積み上げ型の学問
- まずはミクロ経済学から
 - いきなり需要曲線と供給曲線
 - 縦軸は価格
 - でも価格って何？ミクロ経済学ではお金は出てこないよ！？
- 完全競争市場の話は面白くない

登山型から遊覧飛行型へ

- ミクロ経済学でも、いきなり価格差別から教える
- 統計学から丁寧にやらずに、いきなりデータ分析



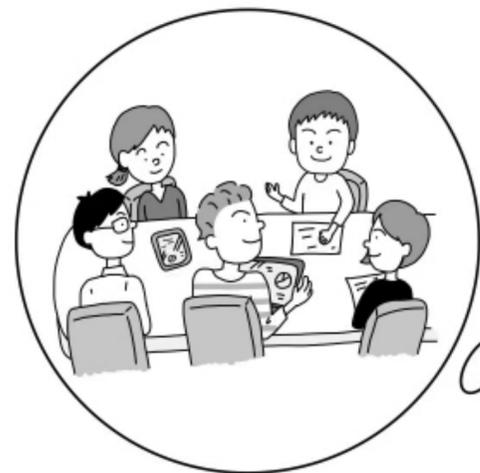
大学1年生向けの経済学入門

- 第1回：はじめに：なぜ使える技術としての経済学を大学1年生が学ぶのか
- 第2回：価格差別：映画館の料金はどのように決まるのか
- 第3回：ダイナミックプライシング：時期によってホテルや航空券の料金がなぜ変動するのか
- 第4回：リスクとインセンティブ：アルバイトはなぜ時給での賃金支払いなのか
- 第5回：チーム生産：みんなで頑張るときに手抜きをするメンバーをなくす方法
- 第6回：マーケティングとデータ分析：顧客向けのメール送付が売り上げに与える影響を予想する
- 第7回：交渉理論：他人との話し合いにおいて強くなるために
- 第8回：オークション：入札やオークションでの最適な行動とは

大学1年生向けの経済学入門

- 第9回：不動産情報とデータ分析：お得な賃貸物件を探すために
- 第10回：行動経済学：選びやすいメニューを設定することで利益を増やす
- 第11回：集団的意思決定：多数決以外の納得感のある決め方とは
- 第12回：マッチング理論：ゼミ入室試験をもっと効率的に行うために
- 第13回：シグナリング：就職活動の準備としてどのような活動をするのか
- 第14回：男女間賃金格差とデータ分析：職場において男性と女性の賃金の平均を見るだけでは不十分な理由
- 第15回：おわりに：この講義で扱った内容を振り返る

ゼミ選択!!!



帰省

兄が家をかっときて、びっくら!!

- ・新しい友達
- ・サークル合宿
- ・気楽な一人暮らし
- ...



祝 入学

- ・物件さがし
- ・履習登録
- ・サークルえらび
- ...



大学生活

大輔のすばらしきかな

3月 2月 1月 12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月



・先パイの愚痴をきく大輔...

・学園祭にサークルで参加!



カフェやました



も、と前からやればよかった...

- ・慣れない一人暮らし
- ・アルバイト
- ...



おわりに

現代の経済

- あまりに幅が広い
 - 一人で全てを把握するのは無理
 - どこまで個人が学べば良いのか
- 分業と専門家への信頼
 - 個人からは、理屈はわからなくても使えるというのは有益
 - ブラックボックス化することの危険性（例：AIの活用）

現代の経済

- どうする？
 - 基礎だけはしっかり固める
 - 学び方を知る
 - どんなときに誰に相談すれば良いのかを理解する
 - 高校生が困ったら、親や先生に相談する
 - 親や先生は、法律や経済の専門家に相談するなど